

令和 7 年 9 月 1 日

太田市議会議長 星野 一広 様

志友会 代表 松浦 武志

会派行政視察報告書

- 1 期間 令和7年8月27日（水）～8月28日（木）
- 2 視察先 北海道札幌市（会場：札幌文化芸術劇場 hitaru）
- 3 会議テーマ 地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて
- 4 参加者 松浦武志、高木きよし、長正祐、八長孝之、松川翼、
高野博善、岩瀬僚、青木雅浩

5 会議日程

第1日：令和7年8月27日（水）

開会式

開会挨拶 全国市議会議長会会長 山形市議会議長 丸子 善弘

開催市市長挨拶 札幌市長 秋元克広

基調講演

主権を預かる誇りと責任

元衆議院議長 伊吹文明

パネルディスカッション

【テーマ】

多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える

【コーディネーター】

近畿大学法学部教授 辻 陽

【パネリスト】

東京大学教授

牧原 出

読売新聞東京本社政治部次長	白石洋一
山口県宇部市議会議長	山下節子
北海道札幌市議会議長	長内直也

第2日：令和7年8月28日（木）

課題討議

【テーマ】

地方議会議員のなり手不足問題の取組報告

【コーディネーター】

関東学院大学法学部地域創生学科教授 牧瀬 稔

【事例報告者】

長野県岡谷市議会前議長	今井康善
鹿児島県南さつま市議会議員	平神純子
石川県白山市議会議長	中野 進

6 所感

第1日の基調講演では、元衆議院議員の伊吹文明氏が、「主権を預かる誇りと責任」と題した講演を行った。「議会」という場が単なる政治行政の舞台ではなく、憲法秩序のもとで「国民の主権」を行使する神聖な場所であるとの認識を強調された。この思想は、今後の議会人に対する倫理観や自覚を語る上でも非常に示唆に富んでいると感じた。議員にふさわしい処遇の重要性も訴えられ、経済的支援が不十分な現状では、志ある人材確保が困難であるとの指摘もされており、国や地方議会の現状を憂慮されている印象を受けた。

続くパネルディスカッションでは、近畿大学法学部教授の辻陽氏をコーディネーターに、4名のパネリストにより意見が交わされた。東京大学教授の牧原出氏は「地方制度調査会」や「持続可能な地方行財政のあり方に関する研究会」での議論を踏まえてオンライン議会や自治体DXについて、読売新聞東京本社政治部次長の白石洋一氏は地方議会や地方議員に対する不信感が広がるなかで、克服するための試みについて、山口県宇部市議会議長の山下節子氏と北海道札幌市議会議長の長内直也氏は自身が議員としてどのような人たちの代表であると認識されているのか、そして議会全体をまとめる議長職として改めて認識した議会の役割について、それぞれ説明を行い、議論が交わされた。

第2日目の課題討議では、関東学院大学法学部地域創生学科教授の牧瀬稔氏をコーディネーターに、3名のパネリストにより事例報告が行われた。長野県岡谷市

議会前議長の今井康善氏は全国唯一の「定数割れ」を経験したことから議会改革の具体的な取り組みについて、鹿児島県南さつま市議会議員の平神純子氏は女性議員の数を増やしていく活動の経過について、石川県白山市議会議員の中野進氏は市民との情報共有に重点を置いた活動について、それぞれ説明を行い、議論が交わされた。具体的な改善策として、議員報酬の見直し、立候補支援、公費負担の拡充、立候補休暇制度、兼業規定の柔軟化、育児介護休暇制度、共済年金への加入などが挙げられており、全国的に課題は共通していると感じた。

総括として、第20回全国市議会議長会研究フォーラムにおいては、2日間を通して、地方議会議員のなり手不足問題と多様な人材の参画促進に関する多角的な視点からパネルディスカッションや課題討議が展開された。「議員のなり手不足」という現実的で差し迫った課題に焦点をあてた今回のフォーラムは、非常に意義深い内容だった。人口減少や無投票選挙、投票率の低下に直面する自治体においては、市議会の担い手確保は喫緊の課題であり、その解決策を検討する場として本フォーラムのテーマ設定は必然性を帯びていた。若者や女性、会社員など、多様な人材の参画促進の観点から、適正な議員定数の設定や議員報酬の見直しについて、なり手不足問題対策としての主権者教育など、本市議会でも議論されているトピックで議論が展開されていることから、本市の現況を思いながら参照し、考察を進めることができた。議会に対する関心を高め、多様な人材の参画促進に地方議会がより積極的に取り組むことができるよう、今後を活かしていきたい。

